



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

# 北鎌倉だより

2007年7月 NO.17



## 目次

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| ■ 台峯のこれから、総会報告 .....        | 2  |
| ■ 歩く会 100 回記念の集い .....      | 3  |
| ■ 台峯基本計画について、基本設計に向けて ..... | 4  |
| ■ ゾーニング図 .....              | 6  |
| ■ 会計報告 .....                | 8  |
| ■ 北鎌倉文学散歩 .....             | 9  |
| ■ 北鎌倉女子学園の山歩き マップ作り .....   | 10 |
| ■ ホタルと月とお星様と・・・ホタル観察 .....  | 11 |
| ■ 活動報告、伝言板 .....            | 12 |

# 台峯のこれから

～基本計画の確定から基本設計へ～

吉野 功

台峯緑地の保全について「基本計画」が確定しました。

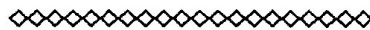
「基本構想」の理念・方針に基づき、私達市民の意見を反映して作られたものです。その概要は『広報かまくら』（7月15日）にも載り広く周知されました。

そこには、保全を単に昔の里山に戻すのではなく、「台峯のシンボリックな存在となったハンノキ林とその周辺環境の保全に留意する」という、台峯の現状に即した保全形態を模索する方向が示されています。

基金の活動目的として、私達は台峯の「火質的里山保全」という言葉を使ってきましたが、この「基本計画」によってその内容がより具体化したと言えます。

今後の活動は「基本計画」の方針に基づいてさらに具体的な内容を「基本設計」の中に盛り込んでいくこととなります。実際の行政や関係者と台峯緑地の現場に立ち会って意見交換をしていくケースが増えていくと予想されます。

今後の維持管理には、当基金のメンバーだけでなく多くの市民の参加が求められるでしょう。いま、様々な分野において市と市民の協働が求められています。台峯の自然を観察し、きめ細かい作業を行ないながら保全に努めてきた私達はその協働のあり方についても実のある提言をしていくことが求められています。



## 第6回通常総会



2007年5月27日（日）11:00

鎌倉NPOセンター会議室にて開催。

正会員総数29名のうち当日出席正会員数は、委任状を含めて26名。

以下の議案が原案通り承認されました。

### 第1号議案

第6期事業報告書及び収支計算書並びに2007年3月31日現在の貸借対照表及び財産目録について

### 第2号議案

第7期（2007年4月1日～8年3月31日）事業計画及び収支予算書についてさらに「緑地保全積立金は台峯緑地の風致公園となる過程で保全のために必要のある場合は当基金の事業としてその使用を考えている。」という理事長の説明がありました。

## 歩く会 100 回記念集いの報告

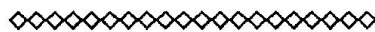
2月18日(日)山ノ内公会堂にて北鎌倉・台峯を歩く会の開催100回を記念した集いが開催されました。

歩く会は当基金が1998年11月にスタートして以来、毎月第3日曜日に開催されてきました。現在の理事である久保廣晃さん、池英夫さんらの案内により、延べ3,000人余が台峯緑地を歩いたこととなります。

理事長の吉野さんから、当会のNPO法人としての今後のあり方など重要な事項はアンケートなど、会員の意思に基づき決定するという方針が示されました。

歩く会の開催を呼びかけた前理事長、なだいなださん、遊びの場であった台峯の保全のために貴重な写真を提供してくださってきた、川上克己さんも参加され、楽しい会となりました。また、県議会議員の仙田みどりさんもお祝いに駆けつけてくださいました。

久保さんからは、山崎・台峯緑地基本計画及び、基本設計の概略と今後の展望の説明がありました。その説明の中で、山崎・台峯緑地が公園として供用開始されるまで、当基金が台峯緑地とどのように関わっていくべきかが示されました。



川上さんのお宅で台峯の風景、トリや花の写真を見せていただきながら少年時代台峯周辺で遊んだお話を伺うたびに、台峯は是非とも残さねば、という気持ちが湧いてきたものです。このたび歩く会100回記念の集いで川上さんを皆様にご紹介でき、台峯保全を実感できた幸せなひとときを過ごしました。

### 100 回記念に寄せて 川上克己

北鎌倉台峯トラストの歩く会も100回を迎えたこと、驚きと共に感動しています。発会より地道に活動し、継承しつづけた会員の皆様に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

過去数十年「緑を守ろう、台峯を守ろう」というような会が幾度となく発会しましたが、いずれもわずかな期間に弱体化し、衰退して消滅してしまいました。そんな中で発会した「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」北鎌倉台峯トラストの皆様が、根気よく活動された結果、行政を動かし、業者、地権者の理

解を得ることが出来、「台峯を守る」という大きな目的を成し遂げて下さいました。

「山を動かした」まさに奇跡ともいふべき成果です。本当にありがとうございました。

これからも台峯の環境保全に活躍のほどよろしく願いいたします。

今後、私も正式に会員登録させて下さい。微力ながら、お仲間に入りたいと思います。

よろしくお願い致します。



## 「(仮称) 山崎・台峯基本計画」の確定と「基本設計」策定に向けて

昨年7月「(仮称) 台峯緑地基本構想案」が発表されてから1年、「(仮称) 山崎・台峯緑地基本計画」(以下基本計画)が確定し、台峯緑地の将来像が決まりました。予定より遅れましたが、当基金および関連市民団体で結成された「台峯保全連絡会」の意向が反映された内容となっています。今後、「基本計画」を実行に移すための「基本設計」が10月末に確定する見込みです。「基本設計」では、台峯の将来像を実現するためのアクションプログラムを策定し、市と市民が協働しながらどのように関わるかを考えていかなければなりません。

論点を整理するために主要な項目の目標、基本計画(既に決定したこと)、基本設計(これから決めること)に分けて見てみます。

● **施設** 緑地内には作らず、外縁部の4地点に最低限のものを作る。

基本計画：道具置場、トイレと更衣室の10坪程度の建物が2箇所、駐車場(管理用を主に2～3台分と5台分の駐輪場)が3箇所。

基本設計：建物の設計等が決まる。水田の復元が予定されている清水谷戸地区は検討が必要。

● **標識(サイン)** 最小限にとどめ、自然素材を用いたものとする。

基本計画：各入り口に案内サイン(解説板を兼ねる)を2種類、計11箇所、道の分岐に誘導サイン13カ所、危険な場所に規制サイン8箇所。

基本設計：設置時期、保守管理体制とデザインを検討。

● **道** 現状を基本に静かな山道にする。

基本計画：車道や舗装はもちろん、拡幅工事等は原則としてしない。主動線(主な道)と副動線に分ける。源流の森と里山の保全ゾーン(台

峯の南半分谷戸の池の周辺)は、自然保護のため副動線とし主動線から外す。中央公園側との連絡路を新たに2箇所設ける。

基本設計：新たに開削する区間や路肩補強が必要な地点が一部にある為、具体的な位置と整備の詳細を決める。区間により路傍の植物も異なるため、路傍の草刈の仕方を検討。

● **森** 現状を基本。一部に雑木林の復活を!

基本計画：源流の森と里山の保全ゾーン(台峯の南半分谷戸の池の周辺)は水源林として、大きな木は切らずにそのまま残すことが原則となっています。里山保全ゾーン(北半分)と里山再生ゾーン(清水谷戸)2つのゾーンでは、一部で斜面の伐採を行うなど昔の里山の復元も試みる。

基本設計：森を良い状態で守るには、木を切ったり下草を刈ることも必要。道沿いの倒れそうな木は業者に依頼。場所によりアオキやササ等の下草を刈る作業も必要。どこを(場所)どのように?いつ頃から(時期)作業するか検討。作業で出た枝葉の置き場所の確保も検討必要。

● **広場** 畑跡地利用の山景観と生態系保全。

基本計画：約4箇所の畑と畑跡地を多様な草原(一部苗木畑を含む)に誘導。舗装はもちろん、芝生や植木などは持ち込まず、草刈による自然な草原に誘導し、昔の里山の景観を復元することを目指す。他に眺望の良い地点2箇所は丸太のベンチなどを設置し、休憩できる場所とする。基本設計：ススキの原や菜種の畑を復活させる、マツやクヌギなど雑木林の苗木や野草の苗を育てる畑にするなどを検討。どこをどのようにするか、具体的な将来像を決めていく他、ササが茂って荒廃している畑跡地等の復元法も検討。

● 水路と湿地 台峯の特徴的な景観を守る保全手法を考える。

基本計画：3つエリアに分かれますが、大別すると、源流の森と里山の保全ゾーン（台峯の南半分谷戸の池の周辺）の湿地は、ヨシ原とハンノキ林を中心とした多様な湿地の現状維持が目標。保全策として、水路の洗堀（侵食）防止対策と畦跡地に生える灌木の整理や畦の補修が提示されている。里山の保全ゾーン（北半分）の湿地は、衰退してきたオギ原の復元が課題、カナムグラの除去、枯れ草の搬出、水路の洗堀（侵食）部分の補修が急務。いずれも貴重な生物の生息地のため、指標となる生物種（ヘイケボタル、カヤネズミなど）が挙げられる。

基本設計：保全作業のあり方や時期を具体的に記述。指標となる生物のモニタリング法も検討。

● ハンノキ林 台峯のシンボルとして積極的な保全策を考える。

基本計画：3箇所あるハンノキ林は、それぞれ保全作業が必要なが判った。谷戸の池奥のハンノキ林では下草刈りが、谷戸の池周辺のハンノキ林では湿地の水条件の調節が必要。

基本設計：湿地の管理とハンノキの生育の良否をどのようにモニタリング（経過観察と評価）し、保全作業につなげていく。

● ため池 保全のための抜本的対策を実施。

基本計画：堤防の安全性を確かめたうえで必要な補強対策を行なう。ため池に溜まったヘドロを浚渫する。これ以上の泥の流入を防ぐため、ため池の上流部に沈砂池を設置する。

基本設計：すでに提示されている工法をさらに検討を重ね維持管理の仕組みや供用開始10年後までに必要な保全作業計画を検討。

● 清水谷戸（山崎小学校裏の谷戸） 田畑を中心とした里山の景観の復元を。

基本計画：里山復元ゾーンとして積極的な里山景観の復元を計る。現在、山崎小学校が水田を復元しているが、今後も学校が主体となって子供達の農体験が出来るよう、田畑と周辺の里山環境（水路、土手、竹林、斜面林）を復元。

基本設計：多くの人手が必要となるため、維持管理の仕組みが必要。

その他：「基本計画」には未記載ながら、北大路魯山人の旧跡、「其中庵」も台峯緑地の一部として保全が決定。建物や庭の保守管理や利活用のあり方を基本設計で検討していく。

台峯緑地の将来は、森と湿地を主体にした、所々に里山の景観が残る静かな緑地となるでしょう。湿地やため池、里山的な景観は、放任すると失われてしまいますから、これからも手入れ作業が不可欠です。市民と業者の作業の分担、市民と行政の協働のあり方など管理運営の大筋が「基本設計」で策定されます。さらにこのガイドラインを基に、供用開始（開園）となる10年後に備え、現場で作業を試行し、モニタリング（経過観察と評価）による見直しを繰り返しながら、より現実的な管理運営方法を確立させなければなりません。

作業手法の見直しは勿論、全ての作業が出来るとは限らないので優先順位の問題も出てくることでしょう。

当基金の、山の手入れ作業やマップ作り（モニタリング）の継続が、ますます重要になってきます。これからもご協力をよろしくお願いいたします。



久保廣晃

其中庵

里山再生ゾーン

里山環境の再生  
水田、苗木畑、竹林、スギ林  
萌芽更新(コナラ)

用具庫  
休憩スペース  
駐輪場  
作業ヤード

管理運営拠点  
施設用地として活用

農作物や苗木の畑等に活用

水田・湿地再生エリア

水田、湿地環境の再生

凡例(全体)

- 常緑広葉樹自然林
- 沼沢林
- 混生二次林
- 落葉広葉樹二次林
- 林縁生低木-ツル植物群落
- 乾生草地
- 乾生草地(耕作地)
- 湿生草地
- 竹林
- 植林地(針葉樹)
- 緑の多い住宅地
- 人工地
- 開放水域
- オシダケ
- ヤマダケ
- ソメイシ
- ゾーン
- エリア
- 【主動線】
- 【副動線】
- 【補助動線】

主要なアクセス

里山

湿地、二次林

新炭林の再生

里山の湿地再生エリア

多様な湿地環境の再生

里山の湿地保全エリア

ヨシ原とハンノキ林の保全

源流域の湿地保全エリア

多様な湿地環境の保全

水路の保全  
湧水口の保全  
洗掘箇所の整備  
泥の流入防止

源

湿地



0 50 100 200m

体験作業棟A  
(会議室、トイレ、  
更衣室、用具庫)  
駐車場(管理用)  
駐輪場  
休憩スペース  
作業ヤード

眺望・休憩所

原っぱへの誘導

遺跡(やぐら)を活用した  
多様な草地への誘導

眺望・休憩所

多様な草地への  
誘導

保全ゾーン  
常緑広葉樹林、  
保全

湧水口の保全

ハンノキの保全

ため池  
水環境の改善

古木の保全

ハンノキの保全

スギの間伐

梶原入口

の森と里山の保全ゾーン

常緑広葉樹林の自然林保全

ハンノキの保全  
7材・7xマツサリ  
水条件改善

古竹林伐採

用具庫  
駐車場(管理用)  
作業ヤード

日当入口

風穴遺跡  
山之内配水池

山ノ内配水池入口

遺跡(やぐら)を活用した  
多様な草地への誘導

体験作業棟B  
(トイレ、更衣室)  
用具庫  
休憩スペース  
駐車場(管理用)  
駐輪場  
作業ヤード

# 会 計 報 告

(平成18年4月1日より平成19年3月31日まで)

特定非営利活動法人  
北鎌倉の景観を後世に伝える基金

|        | 科 目          | 4月から3月迄          | 摘 要               |
|--------|--------------|------------------|-------------------|
| 収<br>入 | 正会員費         | 74,000           | 29名内新規3名          |
|        | 個人会費         | 391,500          | 普通会員314名、家族会員104名 |
|        | 団体会費         | 9,000            | 3件                |
|        | 民間助成金        | 406,524          | 9件                |
|        | 寄付金          | 108,000          | 18件               |
|        | 機関誌収入        | 4,400            | 9冊                |
|        | 受取利息         | 11,131           | 鎌倉市債              |
|        | 雑収入          | 10,180           | 絵葉書、保険料戻し         |
|        | 収入合計         | 1,014,735        |                   |
| 支<br>出 | (緑地の保全・管理事業) |                  |                   |
|        | 整備作業費        | 26,414           |                   |
|        | 賃借料          | 12,000           |                   |
|        | (普及・研修・事業費)  |                  |                   |
|        | 通信費          | 96,933           | 会員宛会報及び集い発送費他     |
|        | 印刷製本費        | 90,673           | 会報、山歩きチラシ         |
|        | 事務消耗品費       | 45,371           | 用紙代               |
|        | 損害保険料        | 0                | 山歩き、山の手入れ         |
|        | 賃借料          | 66,000           | 山歩き時の山ノ内公会堂借室料他   |
|        | 会議費          | 8,400            | 11月23日会員の集い       |
|        | 雑費           | 34,820           | 集い                |
|        | (広報・出版事業費)   |                  |                   |
|        | 通信費          | 76,429           | ホームページ回線使用料       |
|        | (交流・協力事業費)   |                  |                   |
|        | 負担金          | 53,000           | 日本ジオグラフィスト協会他     |
|        | 事務消耗品費       | 421              | ” 大会出品材料費         |
|        | 通信費          | 2,010            | ” 大会出品送料          |
|        | 雑費、その他       | 420              | ” 振込料             |
|        | (管理費)        |                  |                   |
|        | 会議費          | 15,960           | 総会                |
| 通信費    | 52,870       | 会費入金時振込料及び領収書送料他 |                   |
| 事務消耗品費 | 35,249       | 封筒他              |                   |
| 賃借料    | 36,000       | 理事会会場使用料         |                   |
| 交際費    | 15,000       | 香典2件             |                   |
| 雑費     | 45,524       | 法人登記費用、謄本取得費他    |                   |
|        | 支出合計         | 713,494          |                   |

前期より繰越 4月から3月迄

|                                 |        |            |            |                           |
|---------------------------------|--------|------------|------------|---------------------------|
| 保<br>有<br>資<br>産<br>・<br>負<br>債 | 現金     |            | 4,780      |                           |
|                                 | 当座預金   | 262,938    | 29,876     | 小坂郵便局                     |
|                                 | 普通預金   | 699,283    | 1,118,131  | ” ￥65,712東三UFJ ￥1,062,419 |
|                                 | 定期預金   | 12,367,414 | 12,478,089 | ” ￥9,629,388 ” ￥2,848,701 |
|                                 | 鎌倉市債   | 1,000,000  | 1,000,000  | 大和証券鎌倉支店                  |
|                                 |        | 合計         | 14,329,635 | 14,630,876                |
|                                 | 差引正味財産 |            | 14,630,876 |                           |

緑積立金 13,471,000  
ホームページ更新積立金 60,000



## 台の稲荷神社



和泉あき

下級武士でし  
たが、維新後、  
警視庁の巡査

になります。薄給に苦しみ、一家の窮乏を救うべく志願して従軍します。しかし、すぐに戦死してしまい、幼かった花袋たち兄弟は一層苦勞することになります。

鎌倉の北辺、この台村の若者がどんな事情で従軍したのか分かりませんが、当時としてははるか遠い地だったろう熊本で、何を思いながら戦い、そして死んでいったのでしょうか。植木というのは田原坂などとともに激戦があったということで名高い場所です。しかも、この碑は明治二十九年二月に建立されています。西郷隆盛が賊名を除かれ、名誉回復したのは明治二十二年でした。知られているように、西郷は賊として討たれたには違いありませんが、その名利に無縁の人柄は判官びいきも手伝って、旧士族のみならず庶民の間でも圧倒的な人気がありました。そうはいっても、この若者がまさか西郷方だったわけではないでしょうから、碑が建てられるまでに時間があつたことと、こうした事情は関係ないのでしょうか。おそらく亡くなった若者の思い出は、長く家族の間であたためられていたのだと思います。

台峯を何度も往復していると、思いがけないものが見つかり、このような当時の青年の上にも、つい想像がひろがっていきます。そういえば石碑のある草叢にも、ヒメムカシヨモギ、別名サイゴウ草がむらがっていました。

台峯にナンバンギセルの咲く場所があります。その名前からして、てっきり南蠻船がやってくるようになって以後の外来種かと思っていましたら、なんと万葉集では思い草とよばれていたのです。当時の人々が、「こりゃ思い草なんていうよりナンバン人のキセル（パイプ）にそっくりだ」と思ったのでしょうか。

そうかと思えばヒメカシヨモギというきく科の二年生草木、いかにも昔風な名前ですが、別名テツドウ草、ちょうど日本に始めて鉄道が敷設された明治五年ごろ、原産地の北アメリカから入ってきて、以後各地に群生するようになったということです。又、別名サイゴウ草ともいうと教わりました。西郷隆盛が下野、帰郷したのが明治六年、西南戦争が明治十年ですからそうよばれたのもうなずけます。植物に限りませんが、名前と言うのはおもしろいものです。

さて西南戦争のことです。台の麓に鎮守の稲荷神社があります。神前の鈴なども新調されて、地元の方々が大事に祀っておられます。台村の俳人小野田泉里の句碑もあるのですが、社殿に向かって右側の草叢に半ば埋もれた、一基のささやかな石碑に「」が止まりました。一族の子孫が現存しておいででしょうから、お名前は控えますが「○○○○乃碑 明治十年四月八日 於肥後国山本郡植木村戦死」と刻まれています。軍制が発足して間もない当時、兵力の不足を補うため、明治政府は多数の志願兵を募集しました。たとえば自然主義の作家、田山花袋の父は上州館林藩の

## 中学生と台峯を歩く

望月晶夫

3月14日・15日の2日間、北鎌倉女子学園中学校の1年生約120名と「台峯」を歩きました。

この行事は学校の行事として毎年行われており、今回より「当基金からも」という事で従来の久保さん、川上さんに加え、望月が参加しました。毎月催されている「山歩き」は「台峯」「自然」に興味も関心も深く持った方々が参加されますが、今回はその点興味の度合いは全くバラバラ、平均年齢もいつもより40歳も50歳も若く、心配する一方興味津々でもありました。

自然に関する知識に欠ける私としては、事前に毎月の「久保レポート」を片手にコースの下見をする等、一応何を聞かれても答えられる様それなりの準備をしました。

当日は又木校長先生はじめ先生方が10名程参加され、学校側の関心の深さを感じました。早速3グループに分かれて出発しましたが、いきなり生徒から「先生この花何ですか」と聞かれ、私が「先生」であることを自覚させられ正直ドキドキでした。

同じ黄色の花ですが、ミモザを菜の花と答える子もいるかと思うと、この花は「オオイヌノフグリ」ですねとびっくりする程の知識を持っている子もいて本当に様々です。

「ヒメウズ」にじっと見入る子ども、「ウグイスカグラ」のピンクの花を見て「カワイイ」を連発する子ども、又一方では「イノデシダ」の新芽を見て「キモイ」又「アカガエル」の卵塊を見て又々「キモイ」を連発！でも靴を泥々にしながら手を出して触ろうとする様子を見ていると「台峯」が残って本当によかったなとつくづく思った次第です。

「タチツボスミレ」の前では宝塚の「スミレの花咲く頃」の歌が出る等、さすがに北鎌倉女子学園と思うシーンもありました。

最後に「市民団体」「地域」「学校」等みんなの努力で台峯は宅造されずに残す事が出来た事、その中で10代の6年間を過す事が出来る素晴らしさを一緒に話し合いました。

当会としても会員の拡大と若返りが課題となっていますが、今後も積極的にこの様なイベントに参加すべきと思います。

## マップ作りの会とは？

台峯の生物地図を作ろうと始めてみました。それがマップ作りです。記入用の地図は、GISを用いた位置データを元に25m四方のメッシュが区切られているので、客観的で再現性のある位置情報が得られます。後々まで役立つデータとなるはずですよ。

「貴重な植物発見！」「先月刈ったササの跡に

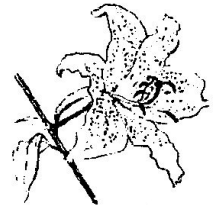
スミレが咲いた」等等、楽しく観察しながら保全に役立つ情報を集めています。

自然の変化を記録し、次の作業に役立てるような観察を「モニタリング」といいます。作業とモニタリングは車の両輪のようなもの。マップ作りを通して、モニタリングを実践してゆきたいと考えます。参加歓迎。

## ホタルと月とお星様と

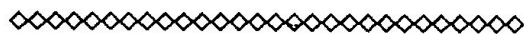
ホタル観察会 2007年6月23日

石原瑞穂



”トトロのトンネル”を過ぎ、谷戸の池に近づくころ、「あ、ホタル！ こっちにくる！」。基金の監事をされている林さんのお嬢さん、みわちゃんの弾んだ声。大きなホタルがゆるやかな弧を描いて右手の土手の茂みに止まります。「つかまえよ！」と土手に身を乗り出すのを慌てて支えた腕に、欲びにあふれる少女の興奮が伝わります。優しく伸ばした両手のくぼみにホタルはホッコリ収まりました。皆に見せようと手を緩めた瞬間、スッとホタルは浮き上がり、ユルユルとハンノキ林を高く舞い上がっていきます。声もなく手を差し伸ばすみわちゃん。「あんなに優しく包んであげたからホタルさんは元気にたくく、高くお空まで行けたのね」と励まされて、「みわのホタルさん・・・」とポツリ。

光跡を追ったみんなの目はハンノキの梢越しに北の空へ、「あら、ひしゃく星があそこに！」と初めて参加した女性。暗がりのホタル探しに夢中だった私達はその時初めて、かすかに明るさの残る空には半月と星がいっぱい出ていることに気づきました。



### 山の手入れは止められない

住宅地やいわゆる公園では、道端に”自然”に生えた草花は一まとめに雑草として抜かれ、「草むしりしてきれいになった、」となるのです。でも山ではちょっと違います。

ササ刈りはササがなくなって終わりではな

水源地への山道は、谷戸底からゆらゆらとホタルが舞い上がり、ながれ、瞬きます。

いつの間にか辺りはすっかり夜、足元の黒々とした茂みにキラキラした光が満ちみちています・・・「ホタル??」、「あっ、月の光が葉に照り返してるんだ！」。半月がきっぱりと空にかかっていた。夜の二つの顔、闇の暗さと空の明るさをホタルの光跡とともに体感した忘れられないひと時でした。

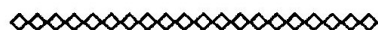
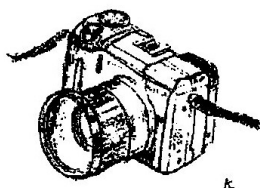
梅雨時にはさわやかな竹の7時ころ、長袖に長靴、帽子を目深にかぶった、あやしげな一団・・・ホタル観察会参加者二十数名が、一列になって谷戸奥に踏み入っていったのはほんの一時間半ほど前のこと。暗さを増す山道の足元に細心の注意を払う谷戸歩き。伝言ゲームのように飛んだ注意の数々、「左、急斜面デース!」、「足元がすべりマース!」、「頭上に枝デース!」。帰り着いた皆の顔には自然の中でホタルに会えた充足感と、慣れぬ夜の山道歩きによる緊張から解き放たれた開放感があふれているようでした。

く、ササの陰でじっと耐えてきた、私達が思ってもみなかった野草を生かすことになるのです。その楽しさがおまけです。生き物は微妙なバランスで生きているので、一見関係があるとは思えないことが起ります。その連鎖は知らないと損する面白さ、手入れで学ぶ生態系。知る楽しみは無限大！初心者大歓迎！

## 活動報告

(2007/2月～7月)

1. 定例理事会 2/4・3/4・4/1・5/6・6/3・7/1  
臨時理事会 2/11・4/28  
定例総会 5/27
2. 台峯を歩く 2/18(100回記念)・3/18・  
4/15・5/20・6/17・7/15
3. 山道整備作業 2/17・3/17・4/14・5/19  
6/16・7/21
4. マップ作り 2/4,14・3/4,17・4/1,28・  
5/18・6/3,16・7/1
5. 台峯保全連絡会 2/4・3/11・4/8・5/13・  
6/10・7/8  
公園海浜課との話し合い 2/16・3/27・7/4
6. ホタル観察会 6/23



### ホームページの

#### アドレスが変わりました

基金のHPアドレスは、以下のように変わりました

<http://www.kitakamakura-daimine-trust.org/>

お気に入りに登録の方は修正をお願い致します。

HPは容量を増やし、より充実したものにしてい  
く予定です。少し前の台峯や北鎌倉の写真を紹介し、  
保全及び景観の問題を考える参考になればと考えて  
おります。

### 歩く会、山道の手入れ

#### あなたも参加しませんか

台峯に興味がある方、自然の保全に関心がある方な  
らどなたでも参加できます。開催日時、集合場所、  
注意事項など、詳しいことは基金のHPをご覧ください。

## 伝言板

### 台峯のカレンダー制作中

写真を提供して下さったのは、台に生まれ、  
台に育まれ、何よりも台峯を愛しておられる  
川上克己さんです。機関紙2号、4号にも掲  
載させていただきましたが台峯の四季折々を  
写された川上さんの写真は、すばらしいの一  
語です。というより川上さんの写真があった  
から、カレンダーを思いついたといえます。  
写真だけではちょっとさびしいので俳句を加  
えてみました。芭蕉も蕪村も台峯に来てくれ  
たわけではないのですが、すぐれた句の豊か  
な季節感と深い味わいを改めて感じさせられ  
たことでした。ご好評につき来年も、と  
なりますか

写真 川上克己

選句 和泉あき

### 新規会員募集中

年会費 年2,000円

会費及び寄付金の振込先

郵便口座番号 00250-2-20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

### 会報17号

発行日 2007年7月31日

発行者 NPO法人

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局 鎌倉市山ノ内704-9

TEL 0467-47-9892

電子メール [moc@kamakuranet.ne.jp](mailto:moc@kamakuranet.ne.jp)

ホームページ(アドレスが変更になりました)

<http://www.kitakamakura-daimine-trust.org/>

写真提供 石原 瑞穂・市川和夫

カット 市川和夫